

令和2年度
第2回西脇市総合教育会議
議事録

令和2年11月25日

西脇市教育委員会

西脇市総合教育会議議事録

1 開催日時

令和2年11月25日（水）午後1時15分～午後2時50分

2 開催場所

特別会議室

3 出席者

(1) 市長及び教育委員会

市長	片山象三	教育長	笹倉邦好
教育委員	藤原久和	教育委員	内橋和彦
教育委員	岩本理香	教育委員	柴垣美紀

(2) 事務局

都市経営部長	筒井研策
教育部長	森脇達也
教育委員会参事	遠藤一博
学習環境規模適正化推進 担当次長兼教育総務課長	高橋芳文
学校給食センター所長	山下由美
学校教育課主幹兼教育研究室長	衣川正昭
幼保連携課長	正木万貴子
生涯学習課長	高瀬崇
スポーツ振興室長	西村寿之
図書館長	楠本昌信

4 傍聴者

3名

5 会議の概要

(1) 市長あいさつ

(2) 協議・調整事項

ア 西脇市学校学習環境規模適正化の推進について

イ 西脇市就学前教育・保育の推進計画について

ウ 西脇市立学校給食センター調理業務の民間委託について

エ 令和3年度教育委員会主要事業の概要について

(3) その他

○事務局

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、令和2年度第2回西脇市総合教育会議を開会いたします。それでは、開会に当たりまして、市長からご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

◎市長

皆さんこんにちは。平素は教育委員の皆様方には、教育行政の推進に格別のご支援とご尽力を賜わり、心からお礼申し上げます。現在、全国的に新型コロナウイルスの感染者数が過去最高となり、市としても、感染拡大防止と社会経済活動の両立に全力で取り組んでいるところです。毎年恒例である行事についてもその影響が出ております。人権教育研究大会の中止、また、西脇子午線マラソンのオンライン開催、文化祭に関しても、時世に沿ったかたちで行っていると聞いています。学校現場におかれましても、感染リスクの軽減や工夫を凝らした授業等の実施により、児童生徒の心身の健康と学びの保障を両立させて、安心・安全な学校生活を送れるよう、教育活動を現場にて実施いただいているところがあります。先月、非常に嬉しいニュースがありました。県内の中学校が出場する数学理科甲子園ジュニア2020において、西脇南中学校が準優勝、黒田庄中学校が5位という成績を収めました。聞くところによると、予選では黒田庄中学校が1位通過をしたとのことでした。出場した生徒の皆さんが喜んでいる顔が神戸新聞に掲載され、とても嬉しく感じました。話は変わりますが、先日、教育長と上京しまして、文部科学省を訪問させていただき、国への要望や情報収集等を行ってまいりました。訪問の背景といたしましては、文部科学省で全国のALTに関する業務をされており、西脇中学校と西脇市教育委員会におられた荒川先生に、文化庁や高等学校、小中学校の担当の方等をご紹介いただき、さまざまな情報を得ることができました。また、政策の要望もさせていただきました。文部科学省の方には、教育長と首長が揃って文部科学省を訪問することはあまりないということをおっしゃいました。市長部局と教育委員会がうまくコミュニケーションを取れているということは大変ありがたいことだと思っております。特に、文部科学省を訪問した際には、教育におけるICTの取組やデジタル庁に関する話もいろいろと出ておりました。また、英語教育について、西脇市は、小学校の先生方に英語教育の円滑な取組を行っていただいております。英検の合格率というかたちで効果が出ていると聞いています。今後は、文部科学省が行おうとしている最先端の教育も取り入れたいと思っております。いずれにしても、本日の会

議は短時間ではありますが、有意義なものとなりますよう祈念申し上げます、挨拶とさせていただきます。

○事務局

この後、議事に移らせていただきますが、会議の議長につきましては「西脇市総合教育会議運営要綱」に基づきまして、市長にお願いしたいと思います。市長、よろしく申し上げます。

◎市長

それでは、まず、議事録署名委員につきまして、私から指名をさせていただきます。岩本委員、内橋委員、両氏に申し上げます。議事録の署名をもって「運営要綱」第5項第2号の議事録の承認とみなしますのでよろしくお願いいたします。

◎市長

引き続き、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。初めに、次第2の協議・調整事項(1)、「西脇市学校学習環境規模適正化の推進について」、担当課から説明させていただきます。よろしく申し上げます。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

説明が終わりました。何かご意見やご質問はございませんか。

◎市長

私から1点質問させていただきます。神戸新聞にも掲載されたとおり、地域会議を中学校区毎に開催していただきましたが、参加者を絞ったのか、誰が来ても良いということで開催されたのかというところをお聞きしたいです。また、もう少し参加人数を増やしたほうが良いようにも思うのですが、その件についてはいかがでしょうか。

○事務局

1回目の地域会議につきましては、区長代表、PTA代表、就学前保護者代表、学校長ということでメンバーを固定してお声掛けをさせていただきました。基本的に地域の声を聞く場なのですが、まず、20名弱の委員の方に話をさせていただくのが基本です。傍聴者は入っただけのかたちです。また、それぞれの地域で、区長の集まり等のいろいろな会合等がありますので、要望があれば、そこで意見を聞く場を設け、説明をさせていただこうと思っております。

○委員

検討会議につきまして、1回目から3回目の会議まで参加をさせていただきました。皆さん前向きで、意見を端的に発言されていたように思

います。大事なことは、何が適切、適正なのかということをお皆さんで話し合いをして、組み立てていくことのように思います。地域協議会に参加する方の選定にあたり、PTA等は来年度になれば役員が変わりますので、今まで話してきたことが最初からになってしまうのではないかと懸念があります。2年続けて同じ方が委員をやるか、変わったとしても半数が変わる程度にすべきだと思います。区長も交代される可能性がありますので、まちづくり協議会や自治協議会等の各種団体も入っていただいて、幅広い方からの意見を聞く方が良いと思います。ただ、委員の方も言うておられましたが、将来の子どもたちの学習環境を今の大人が決めるということに、重みを感じます。しかし、線引きも必要ですので、この時期に早く手を打って、西脇市としてどうしていくのかという方向性を明確にすべきだと思います。また、市民の中でも、関心の高い人と低い人に分かれているように感じます。20代や30代独身で、今子どもがおられない方も、将来的には関連してくる問題なので、その方達の興味を惹くようなアイデアもあれば良いと思いますし、市民全体で決めていくことが良いように思えます。

○事務局

まず、任期の件につきましては、委員の方に依頼する際に、できるだけ2年間はしていただきたいということをお願いしております。また、できるだけ多くの方の意見を聞くということで、代表の方に地域会議に出席していただいておりますが、就学前保護者、PTA、区長会等のさまざまな場でご説明をさせていただくことにしております。先日、早速、津万地区の区長会から、来年1月に、もっと大勢の方に対して説明をしてほしいという意見も聞いておりますので、そのようなかたちでできるだけ多くの意見を集めていきたいと思っております。

◎市長

ほか、ご意見等ございませんか。

○委員

地域会議には出席することはできなかつたのですが、資料を見せていただいて、校区毎に、教育への期待や子どもに身に付けてほしい力について、多数の意見が出されていたと感じました。新型コロナウイルスによって学校も新しい生活様式に変わり、社会も大きく変容している時代なので、新しい時代に適応していくために必要なものを考えていかなければならないと思っておりました。地域の会議について、回数を重ねていく予定とのことですが、地域に対しても会議の進捗等を発信していただければ、参加できなかつた方も知ることができるよう感じました。

○事務局

広報につきましては、今年であれば5月と9月の2回、紙ベースの資料で進捗状況の報告をさせていただいております。また、準備段階ですが、ホームページに、検討会議の議事録や、地域会議で交わされた意見の概要版等を掲載し、広く周知していきたいと思っております。

◎市長

先ほどの議事録についてですが、会議で使われた資料についても同様に掲載するという点でよろしいでしょうか。どのような資料を基にして、どういう議論をされたかというのは非常に大事なことだと思います。委員の質問の趣旨もそういったところにあると思いますので、よろしくをお願いします。

○事務局

資料についても掲載する方向で進めさせていただきます。

◎市長

ほか、ご意見等ございませんか。

○委員

今の段階で必要なことは、地域会議のように1人でも多くの地域の方々の考えを検討会議に吸い上げることだと思います。検討会議であったことを地域会議で知らせ、地域会議で話があったことを、幅広い意見として検討会議に持ち上げるということによって話が広がっていくように思います。それと、出生数を見てみますと、将来、子どもの数が大きく減ることによって、頭の片隅に、おそらく統廃合になるかなと考えられる方もおられると思いますが、よく考えてみると、10年という年月はあっという間に過ぎます。すると、おそらく、10年から15年先をひとつの焦点として、現段階での統廃合を考えられているかもしれませんが、ひよっとすると、10年はあっという間なので、もっと先のことを焦点に合わせて考えていかないといけないのではないのかと思います。5年、10年だけではなくて、もっと先の将来像を考えたいうえで話しを進めていかなくてはいけないのではないのかなと感じました。

○事務局

どれぐらいの期間を見据えて検討すべきか、という点については、我々も考えているところであります。今後の制度変更等も考慮したうえで15年を目途に考えています。また、市においての総合計画等の基本になる計画では、5年から10年を目途に考えられているものもありますので、上位計画とも期間を合わせて考えているところです。

◎市長

ほか、ご意見等ございませんか。

○委員

検討会議、地域会議の両方に出席させていただきましたが、出席された委員の方の話を聞くと、何を話せばいいか戸惑う意見もありました。また、前回の検討会議でも、どういった方向でまとめていくかを知りたいという意見がありました。同様の意見を、地域会議でも聞くことができましたので、もう一度はっきりさせたいうえで話し合いを進めていただきたいと思います。また、10年後、20年後のことを考えるのは難しいと思いますが、地域会議で話していることを聞くと、細かい課題も多く出ているように思いますので、参加者の人数を増やすなど、幅広い意見を聞くことが大事だなと思いました。新型コロナウイルスの問題があるからこそ、これから先の問題を考える必要性が出てきたと思いますので、若い世代の方々にもわかるような簡潔明瞭な言い方で説明していただければ、興味を持っていただける方もいるように思いました。

○事務局

地域会議でそのような意見が出ていたのは確かです。ただ、どういったかたちで進めるかということをごさんと一緒に検討するように進めております。そのため、事務局としても、どのようなかたちで進めるのが正しいのかという答えを持っておりません。戸惑いも出てくると思いますが、課題を一つひとつ解決していきながら進めていくように考えておりますのでよろしく申し上げます。

◎市長

回答するほうも難しいと思います。大変良いポイントで意見をいただいたと思います。難しいということを端的に示すことも大事だと思います。やはり、行政はオブラートに包んだ言い方になることが多いように思います。難しいですが、端的に示すかたちで進めてもいいのではないかとということで、良い案をご提言いただきました。この部分について、非常に大事な議題ではあるのですが、教育長からございますか。

○教育長

この課題について、地域会議につきましては、立場上、私は出席しておらず、この場で報告を聞きながらコメントをさせていただきます。まず、先日の市議会常任委員会にて、これからの時代は0才から15才までの教育を保障していきたいということをお話させていただきました。その中で、今も話題に上がっている西脇市の人口構成の変動から、このままでは、連続した教育が難しいのではないかとすることがあります。その具体的な方策の一環に、幼稚園の閉園としばざくら幼稚園の開設、そし

て、認定こども園化によって幼児教育をゼロから支えていこうというかたちで進めようとしております。そして、新型コロナウイルスの流行がきっかけになって、GIGAギガスクール構想含めて、日本の社会が大きく変わりました。ご存じのように、「Society5.0」と呼ばれる社会の中で、人口が減少し、何に頼っていかなければならないか、生活をどう変えていく必要があるのか、教育はどうあるべきか、世の中の大きな変革期に入り見通しができない中で、国が示すギガスクール構想、県が示そうとしているICT教育、我々が今進めようとしている、西脇サイブの情報化に向かったの推進等、いろいろなことを組み合わせながらやっていく中で、学校教育をどのようにするかということで進めようとしておりますが、人口の切り口から話をさせていただきますと、2010年の西脇市の総人口は、42,802人でした。そこから5年経った2015年には、40,866人ですから、早くも約2,000人が減ったこととなります。そして、10年後の現在、39,965人になっております。つまり、10年間で2,000人以上3,000人近くの人数が減っていることとなります。そして推計では、2025年には、約37,000人で、そのうち、0才から14才までは、2010年で約5,900人だったのが、そこから5年経った2015年が約5,300人と600人近く減っております。2020年にはこの数字が約4,600人と約700人減りました。この傾向から、2025年には、4,440人という数字を想定しております。想定通りにいくと、15年間で約1,500人の若年世代の人口が減っていることとなりますので、今から10年、20年先はどのくらいで人口減少が止まるのだろうかと思えます。既に、小学校でも、1桁の人数しか入学してこない学校が少しずつ出てきました。このような状況の中で、物理的にどうすればよいかということを考えなければならないことがあります。また、現在、子育てをしている親世代の方は、スマホやタブレットに携わってきた世代になるので感覚が違います。我々のようにテレビ世代として生まれた世代からすると、パソコンで育った世代よりも、さらに若い世代が保護者になっていることとなります。それが10年先になって、もっと若い世代の人が保護者になり、子どもたちに期待することが何かということを見ると、我々の世代だけで方向性を決めることは、非常に難しいと思えます。その中で、教育内容がこれから大きく変わりますし、今年から小学校の教科書も変わって新しい教育を現に行っています。英語の教科書も皆さんが驚かれるようなものを使っています。来年から中学校の教育も非常に大きな変化があり、さらに教育が変わっていきます。その中において、子どもたちに何を教えなければいけないかということを考えながら、ハード面とソフト面をマッチさせて、

西脇市は0才から15才までどういったかたちで円滑な教育を提供していくのか、環境をしっかりとつくっていかなければならないかということが課題になると思います。ですので、その視点に立って市民の皆さんには議論していただきたいし、委員の方にはその辺りをしっかりと腹に据えて、西脇市のあるべき姿を提言していただきたいと思い期待しているところです。おそらく市長も同じ考えだと思っております。これからは、大きな改革を、国からだけでなく市からも発信していかなければならないので、それに則った教育改革を進めていきたいと思っています。

◎市長

ありがとうございました。非常に重要な議題なので、多く時間を取らせていただきました。教育委員会の会議は毎月開催していただいておりますが、市長部局が入らせていただく会議は年2回しかありません。こういった会議で一番大事なのは、教育委員の方にも言っていただいたように、地域の方にもっと広く知ってもらうことだと思います。広報紙にも掲載しているという答弁がありましたけれどもデータを見ますと、広報紙をしっかりと見られている方は、約20%しかいないというデータがあります。ですので、周知するうえで、地域自治協議会や地区区長会等にお世話になるなど、各地区の地区会議の議事録等は、各地区で回覧いただけるようなことも考えた方が、より身近に感じていただけたらと思いますし、聞いてないと言われる方がないように、まちづくり課とも連携をして、行政の縦割りがないように丁寧する必要があると思います。

◎市長

次に、次第2の協議・調整事項(2)「西脇市就学前教育・保育の推進計画について」担当課から説明させていただきます。よろしくお願ひします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

説明が終わりました。何かご意見やご質問はございませんか。

○委員

しばざくら幼稚園が閉園ということで、3才児から入園を希望される方がたくさんいらっしゃいますので、喜ばれている保護者の方が結構おられ、ありがたいことだと思いました。また、3才児の保護者の方々は、その後、どこの認定こども園を希望しようかということで、いろいろお話を伺ったのですが、希望の変更等はできるのでしょうか。

○事務局

現時点での希望ということで聞いております。直前での変更もあると

思いますので、そのあたりは臨機応変に対応したいと思っています。

◎市長

3才児が11名しばざくら幼稚園におられるということなのですが、地域的に偏っているなどして、認定こども園が2年後に受け入れる際に、負担が偏るということはあるのでしょうか。

○事務局

11名の3才児の方は、6園にばらついていきますので、偏りはありません。

○委員

入園状況について、少し話は変わるかもしれませんが、就学前教育は特に子どもたちにとって非常に大事な時期だと思います。地域会議や検討会議でも意見がよく出ていたのですが、どのような子どもに育てほしいかというところの意見で、社会の変化に対応できる力を付けてほしいという保護者の方が非常に多かったです。学校の勉強だけではなくて、例えば、やり抜く力、粘り強い力、勤勉さ、リーダーシップが取れる力が非認知能力に該当するそうですが、その力が一番付くのが、就学前の期間だというようにおっしゃっていました。まさにその通りだと私も思います。期待したいことは、特に、実体験を中心としてそういったものが身に付いていくものだと思いますので、指導される先生方には、適切な指導をお願いしたいと思っています。

○事務局

先生方も質の向上で研修等をされているのですが、先生方が子どもたちに活動内容を与えるのではなく、子どもたちが何をやりたいかを自分たちで考えて、どう発展していくかというところを自主的にさせておられるところを私も間近で見えています。このような活動を今後とも継続していきたいと思っています。

○委員

1点目に、幼児教育センターが閉園後10年を目途に閉所ということで、令和15年3月以降についての保育のカリキュラムや、保育の質の向上については、教育委員会がされるということで、力を入れてよろしく願いしますということをお伝えしたいと思っています。2点目に、前回の定例会でも質問させていただいたことなのですが、この先、外国籍の保護者と子どもたちが増えてくるのではないかとということで、保護者の方に通訳機の導入をしていただいたのですが、小学校の就学前にサポートが必要な子どもが増えてくると思いますので、認定こども園にも、多文化共生サポーターの配置をお願いしたいです。

○事務局

1点目の幼児教育センターの件につきましては、事務局としても引き続き行っていきたいと思っております。2点目の、多文化共生サポーターの件につきましては、先月の教育委員会でもご意見をいただき、市長にもお願いしなければいけないのですが、支援が必要な子どもに対して措置をしていく方向で来年度予算要求をしておるところです。

◎市長

先日、認定こども園に行かせていただいたときに、中国から帰ってきたばかりのお子さんがおられ、日本語に少し不自由があったのですが、様子を見てみると、子どもたちがうまくコミュニケーションを取っているので、あとは将来の学力面について考えるべきということで、教育委員会には、各認定こども園で、英語・読み書き等で外部業者にどの程度委託しているのか調べてください、ということをお願いしております。教育委員の皆さんにもそのデータをお示ししたいと思います。各園が個性を持って保育・教育をされている中で、外部資源をどのぐらい使われているのかという現状の把握をお互いにしていかなければならないということです。もう1つ教育委員会にお願いしていることは、小学校の先生が、どの程度認定こども園に関わりを持っておられるのか、各園の保育士の先生とどういった連携を取られているのかというデータを依頼して、作成していただきました。そちらも教育委員の皆さんにも共有していただいて、幼児教育センターからだけではなく、小学校側からのアプローチも非常に大事になってくると思いますので、この部分に関しては、ぜひ教育委員の皆さんからも、データに基づいてご意見等をお願いしたいと思います。

○委員

資料を見ると、かすがこども園、芳田こども園、黒田庄こども園については、定員以上に達しているのですが、定員を超えている人数も受け入れられる予定なのかということをお聞きしたいです。また、兄弟で入園する場合、例えば加東市は、別々の保育園に預けるかたちなので、保護者にお迎えだけでも負担がかかるということを知りました。その点で西脇市はどうされるのかということ、受け入れる子どもの人数に合った先生が確保できなかった場合で、1人の先生が持つ人数が増えてしまったときに、きちんとした指導ができるのかどうかということで、小学校のように加配もあると聞くのですが、加配が順当にできるのかということについて教えていただきたいと思います。園によって子どもの教育も違うと思いますが、西脇市内で、どこの園に行ってもきちんとした就学

前教育が受けることができるという保証を今からきちんとやっていかなければならないので、子どもが過密になったときや、加配の問題に関してきちんと整備されるのか心配です。

○事務局

資料に記載しているのは、第1希望の速報値ですので、入所調整は今から行っていきます。年齢毎に保育士の配置基準がありますので、それに沿って調整していくこととなります。定員を超える園につきましては、第1希望が無理な場合、第3希望までお聞きしていますので、調整していくこととなります。優先度に関しては、就労の方や継続の方、兄弟がおられる場合は同じ園に入園できるように配慮して調整を行います。また、人材の確保ができなかった場合、配置基準を超えてお子さんを預かることはできませんので、先生の数によっては、定員があっても受け入れるお子さんを制限しなければならないということになりますので、人材の確保については努力をしているところです。先生の加配につきましては、特別な支援を要するお子さんについては加配基準を設けておりますので、来年度はそういったところにも力を入れていきたいと思っています。また、どの園に行っても一定の教育を受けられるようにという点に関しては、市内共通のカリキュラムを持って、質の向上委員会や幼児教育センターと一緒に水準に合わせるよう努力しているところですので、今後も推進していきたいと思っております。

◎市長

この水準を合わせるということが非常に難しく、現実に全ての園が同じ水準かという点と違うので、その部分を評価委員が評価をしている部分があるようなところもあります。また、評価の基準には主観もありますので大変難しいですが、共通のカリキュラムを持つということは、他の市ではあまりないと聞いておりますので、幼稚園と認定こども園が同じ目標になっているというところがおおきな1つのアドバンテージだと思っております。それと、資料の中で、認定こども園の「社会福祉法人連携のあり方検討」という点に関して、令和5年から検討ということになっていますが、実質的な検討は内々にはすでに進めております。将来の経営の安定や、事務の統一によるコストダウン、各園での人事交流等、いろいろメリットがあると思っておりますので、この部分についてもお願いします。

◎市長

次に、次第2の協議・調整事項(3)「西脇市立学校給食センター調理業務の民間委託について」担当課から説明させていただきます。よろしく

お願いします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

何かご意見やご質問はございませんか。

○委員

4社がプレゼンをされたとのことでしたが、特に安心・安全面の部分で、優先交渉権を得た業者は、どういった部分で他の業者より優れていたか教えていただきたいと思います。

○事務局

4事業者とも西脇市の参加要件であった1日2,000食以上という要件はクリアしておりました。優先交渉権を得た業者と他3業者の一番の違いは、兵庫県内での実績数になります。また、選定委員の中には栄養教諭も入っておりまして、提案内容を見せていただきますと、衛生管理面と新規研修の内容が4月以降スムーズに行われるという点で選ばせていただきました。また、選定に関して、実績等の一次評価点数と、選定委員による二次評価点数の合計で選んだというところです。

◎市長

他にご意見やご質問ないようですので、次に、次第2の協議・調整事項(4)「令和3年度教育委員会主要事業の概要について」担当課から説明させていただきます。よろしくお願いします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎市長

何かご意見やご質問はございませんか。

○委員

学校学習環境適正化推進事業に関する件で、地域協議会のメンバーで中学生や高校生等の学生を入れたらどうか、という意見がありました。現状をわかっているということと、将来、もし西脇市で仕事をしたときに、こういった環境になるだろうということ、大人と目線で見ると青少年の目線は違うように思うので、来年度、もし可能であれば取り入れていただければと思います。あと、ICTを活用する中で、前の定例委員会でも話させていただいたのですが、黒田庄の一部の地域でワイファイが飛ばない地域があるとお聞きしたので、将来的には対応が必要だと思いますが、費用的に難しいという問題もありますが、平等にICT教育を受けるためには、前向きに検討していただきたいと思います。また、家庭の収入によって教育が変わってくるという部分を、収入に格差があっても教育は変わらないということ、を継続していただきたいと思

ます。

○事務局

非常に良い意見をいただいたとっております。検討会議は夜間の開催となるため、例えば、我々が各学校へお邪魔し、生徒会に訪問をして話を聞くということもやり方の1つだと思いますので、そういったかたちで検討させていただきたいと思っております。

○委員

図書館について、最大貯蔵能力 250,000冊を実現するための閉架書庫の整備ということで、今は閉架書庫の余裕はたくさんあるのでしょうかというのが1点と、今年は図書館まつり等ができず、例年図書館まつりの際に、市民の方に使っていた図書を持って帰っていただくこともされていたので、整理も少し楽だったように思うのですが、それ以外にも大変な整理があると思っておりますが、他に気軽に整理できる方法の考えが何かあるのでしょうか。

○事務局

閉架書庫に関しては、100,000冊所蔵できるようになっています。現在の使用状況としては、75,000冊です。ただ、集密書架という形式で保管をしているので、全面的には整備されておらず、全体の3分の2程度しか整備されておりませんので、閉架書庫はほぼ満杯になっております。未整備の部分を整理しないと、目標である250,000冊を所蔵することは難しいということであげさせていただいております。また、本のリサイクル市についてですが、今年度は図書館まつりができなかつたので実施されませんでした。新型コロナウイルスの状況にも寄りますが、3月ぐらいに図書館まつりを開催させていただき、リサイクル市も実施したいと考えています。

◎市長

図書館との関わりについてですが、図書館に近い地域の児童生徒は頻繁に訪問できるのですが、黒田庄地域等の離れた地域はそれが難しいので、従来は学校の先生に運んでいただいていたのですが、平成29年度からヤマト運輸に委託をし、図書館の本を各校に運んでいただいています。また、一部の小学校では、読書通帳と連動して、読んだ本を反映できる仕組みを先行的に行っています。読書通帳で、年間でどれぐらいの額にあたる本を読んだのかというランキングが出てきますが、離れた地域の子どもたちもそういったものに参加してほしいという思いで、学校の先生や図書館の職員には負担をかけているのですが、制度として取り入れています。

○委員

特に特別支援に関して、全体の子どもの数は減っているのですが、支援を必要とする方の割合は増えているのが実情だと思います。学校教育課も特別支援教育に関わる指導訪問を各学校へしていただいておりますが、やはり、個々に応じた教育を今後とも丁寧によろしくお願ひしたいと思ひます。それと、文化財についてですが、地域をより良く知ること子どもたちに教へていただきたいところですので、郷土資料等を使った出前授業等を復活していただひて、子どもたちに教へていただきたいと思ひます。

○事務局

巡回指導訪問を年に2回行つておひまして、北はりま特別支援学校の先生に同行していただき、個人個人をしっかりと見ていただひておひます。あらかじめ、各学校には観点の共有をしたうえで指導に繋げておひます。また、年1回開催される教育支援委員会がありますが、学識経験者の先生にも入つていただひて行つておひます。こちらに関しては、就学先の決定だけに陥りやすいのですが、支援委員会の中での検証や助言を年間通して行つておひますので、その内容を特別支援の先生への研修や推進部会に課題を下ろしていき、個々に応じた特別支援に繋げていきたいと思ひておひます。

○事務局

文化財の関係なのですが、言われました通り、郷土を知つてもらふことがこれからの教育にとって非常に大事なことだと認識しておひます。ご指摘いただいた出前授業についてですが、現在はなくなつていますが、経緯を踏まえたうえで、今後検討していきたくと思ひます。また、学校にも郷土資料館の取組をPRしていき、子どもたちにたくさん来ていただくということも大切だと思ひますので、取組を行つていきたくと思ひています。

○委員

ICTについて気になる点がありました。小学校からワイファイ・インターネット環境についての調査があり、子どもが昨日用紙をもらつてきました。しかし、なかなか返答されない家庭もあると思ひますので、なるべく早く調査をしていただひて、進めていたひたひたきたくと思ひます。また、収入の少ないご家庭も考慮していただひながら進めていたひたひたきたくと思ひます。そして、図書館についてですが、読解力についての話題が常に出てきておひます。重春地区の方は自転車で行けますが、他の地区の方は保護者の送り迎えがなければ行けないので、図書館から運んで

いただいた本を休み時間に読んでいると子どもは言うのですが、直接図書館に行って本を見るのと、運ばれた本を読むのでは、見る量がかなり違います。先程の読書通帳の話は非常に良い取組だと感じましたので、他の学校でも進めていただきたいと思います。

○事務局

I C Tを活用した教育機会の均等ということではありますが、調査に関して、昨日配布させていただいております。その中で一番考えるべきなのは、1人1台タブレットを導入したわけではありますが、学校が臨時休業になった際等、持ち帰って学習に使うことも想定されるように思います。また、高等学校では、個人で購入し、学校に持ち込むということが決まっているようです。それに向けてではないのですが、社会の流れの中で、I C T機器を活用する環境が当たり前になり、文房具の1つになりつつあります。その中で、可能な限り、ワイファイのルーターの貸し出しもしていますので、ご理解をいただきながら、機会均等に向けて努力してまいりたいと思います。

○事務局

市長からも話があった読書通帳ですが、現在は試験的に2校で行っておりますが、図書は、市内の全小中学校に団体貸し出しを行っております。今年度は新型コロナウイルスの関係で、読書をしようという声がありまして、先生方にも大変お世話になりまして、現段階で、既に昨年度の団体貸し出しを超えている状況になっており、学校には図書館の本をたくさん置いていただいているという状況になっております。ぜひ、学校からご家庭に持ち帰っていただき、家庭でも読んでいただきたいと思います。

○事務局

ワイファイ環境の関係で、学校教育課から調査をさせていただいておりますが、ルーターやSIMカードの貸し出しもしておりますが、こちらが一番心配していることは、返答がなくて環境が把握できないことです。実際に環境がないので貸してほしいと申告いただければお貸しすることができますが、環境がなく返答がないというところがありますので、学校とできるだけ詳細に打ち合わせをしながら、ご家庭の情報をいただくなどの対応をしていきたいと考えております。

◎市長

他にご意見やご質問はございませんか。

◎市長

ないようですので、次に、次第3「その他」について、ご意見やご質

問はございませんか。

◎市長

ないようですので、意見の交換を終わらせていただきます。事務局より連絡事項はありますか。

○事務局

今の予定では、今年度の総合教育会議は、本日をもって終了となります。しかし、現在は新型コロナウイルスの流行の第3波ということで、感染拡大状況によっては、緊急でお願いする場合もございます。それが無い場合は、今年度は本日で終了となります。また、来年度につきましては、通常でありましたら、今年度と同じように2回程度開催を予定しております。その際は、ご案内させていただきますのでよろしくお願い致します。

◎市長

それでは、これをもちまして、令和2年度第2回総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でした。

————— 閉 会 —————